

NHKテキスト

家でつくるごはんはおいしい。

# きょうの料理

2016年4月号  
第60巻 第1号

2016年3月21日発行・発売 毎月1回  
毎月21日発行・発売 4月号



## ひとり分の洋おかず

土井善晴  
新たけのこの酢豚

栗原はるみ  
鯛めし

大原千鶴  
季節の手仕事

棒状だと  
食べやすい!

## 特集 ステイック肉の うれしいおかず

4/4→5/2

Eテレ 放送/月~木/午後9:00~9:25 Eテレ 再放送/火~木・翌月曜/午前11:00~11:25  
総合テレビ 再放送/金曜/午前10:15~10:40

独立時計師…  
神の領域に迫る職人技。  
そして、ファンタジックな  
メカニズムで「時の物語」を  
紡ぐ人たち



ハルディマン H1  
フライング・リラ  
セントラル  
トゥールビヨン

文字盤中央に懐中時計と同じ大型サイズの  
フライングトゥールビヨン機構を搭載し精度  
と機能美を追求した腕時計。昔の懐中時  
計の美しくリズミカルな音も再現しました。  
「リラ」というモデル名はバーツが豊琴(リ  
ラ)の形をしていること  
にちなんだものです。



ハルディマン家に伝わる  
昔の懐中時計は  
彼の創作意欲の源泉。

製作に使用する道具。  
ハイテクなものは  
一切ない。

整然と並べられ、組立作業を待つ  
ハルディマンH1のパーツ。  
そのほとんどが工房内で製作される。



提供 株式会社ステラ・ポラーレ  
Stella Polare Co.,Ltd.  
<http://www.stella-polare.co.jp>

※この「独立時計師の物語」は  
隔月で掲載中。  
次回は6月号の予定です。

400年続く時計一家の末裔

# ベアト・ハルディマン



ハルディマンH11  
セントラル  
バランススピュア

シンプルなメカニズムとルックスをストイックに追求した、H11と対極の美学が香る腕時計。時計の心臓部であるテンプ部分をケースの裏側にあえて隠した、控えめなスタイルが特徴。

## Profile

1964年、スイス・ベルン州のエメンタールに生まれる。1642年から時計作りを続けていたハルディマン家の12代目。12代のうち、彼を含めて10代は時計師を職業してきた生粋の時計一家。その伝統を継承しながら新時代の機械式時計作りに情熱を注ぐ。

## 17世紀から一家で続く時計作りの伝統を継承。円熟期を迎えた新世代の独立時計師

小さな歯車やバネの一つひとつまで自分自身の手で製作し、独自の美学に基づいて、芸術作品としての時計作りを追求する独立時計師たち。

彼らは、現在の機械式時計に使われている基本メカニズムの多くを発明・開発する偉業を成し遂げたアブラアン=ルイ・ブレゲを筆頭に、時計製作に情熱を注いだ昔の時計師たちの生まれ変わりでもあります。

12世紀から城塞都市として長い歴史を持つスイスの古都トゥーン。この街にある自身の工房で時計作りを続けるベアト・ハルディマンは、まさに「昔の時計師」の生まれ変わりといえる存在です。ハルディマン家は400年以上も時計作りを続けてきた名門一家で、トゥーンのあるベルン州の歴史博物館には、彼の先祖が製作したと思われるクロックや懐中時計が数多く収蔵されています。

1964年生まれ、一家の12代目となる彼は、義務教育を終えるとすぐに時計学校に進み、その歴史と伝統を受け継ぐ子孫として時計作りの道をまっすぐに歩んできました。時計学校を卒業した後は、ムーブメントメーカー、老舗時計店等で実務経験を積みながら腕を磨いてスイスの時計師／時計修復師

の国家資格を取得しました。1991年には自身の会社を設立して、作品の製作と時計ブランドからの委託による新機構開発業務を開始しています。1993年には、時計師として最高峰の資格とされる時計マイスターの資格も手にしました。2000年にはハルディマン脱進機で初の特許も取得しています。

そんな彼が独立時計師として一躍注目されたのは2002年。左ページの作品、文字盤の中心でトゥールビヨンが動作する「ハルディマン H1 フライング・リラ セントラル トゥールビヨン」のプロトタイプを、世界最大の時計展示会「バーゼルワールド」で発表したのがきっかけでした。この時、作品をひと目見ようと、時計のプロたちがこぞって彼のブースに押しかけました。この年は、彼はドイツの権威ある時計雑誌『クロノス』の「世界で最も注目される時計師20人」のひとりにも選ばれています。

彼が作る機械式時計の魅力は、何よりもシンプルで美しいこと。そして伝統的なスタイルや音、製作方法にこだわっていること。

昔の時計師たちも当時の最先端技術を積極的に導入して時計作りをしていたことを考えれば、独

立時計師でもハイテクマシンの導入は当然のこととも言えます。しかしへアト・ハルディマンは一家の歴代の人々が愛用してきたものと同じ、昔ながらの道具だけを使って時計製作を続けています。それは彼が自身を芸術家であり、製作する時計を芸術品と考えているからなのです。

シンプルなスタイルのなかに、一家の伝統とストイックな哲学が息づく作品。その魅力は、世界中で認められつつあります。

次はどんな作品を発表するのか。世界中の時計愛好家が彼の新作を待っています。



## 時の芸術家たち

Time Artists  
The World  
of  
Independent  
Watch-  
makers

volume  
3

Photograph by  
Atsuyuki Shimada  
Text by  
Yasuhito Shibuya  
Design by  
Okamoto Issen  
Graphic Design  
Company

トゥーンのアトリエ。  
ここでは約10名の時計師が  
働いている。

